

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	科学的思考の基盤 安全学	将来医療職に従事する学生が安全学に関する基本的素養を身に付けることは必須のことである。本授業は安全学で重要とされる内容を修得させることを目標とする。 安全の基本概念、リスク表現と安全目標、ハザードの同定、確率論的安全評価、事故分析、ヒューマンファクター、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全規制、安全システム、安全文化について教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤 教育原理	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。具体的には、日本における教育の理念および歴史・思想について学ぶとともに、現代における教育のあり方や役割・使命について学ぶ。現代の学校が抱える諸問題、たとえば、いじめ・不登校・高校中退・教師の体罰・校則と管理・保護者の対応などの諸問題について、具体的な事例を通して学び、これからの教育のあり方について考える。	
一般教育科目	科学的思考の基盤 教育方法論	学校教育における授業をいかに行うのか、授業の中で児童・生徒は何を学んでいるのか、教師は授業で何を教えるべきなのか等について、具体的な授業の事例をもと考える。「教育実践」や「授業」とはどのようなことか等、これらの意義、歴史的変遷を理解し、児童・生徒が意欲的・主体的に取り組むことのできる授業を実践するために必要な教育の方法と技術について学習する。特に現代はコンピュータなどの情報機器が発達しているため、これらの情報機器の有効な活用法についても学ぶ。	
一般教育科目	科学的思考の基盤 統計学	医療分野では日常多くのデータに出会う。それらのデータを解析して意味のある内容を導き出すことが必要になることがある。その際統計学が役立つ。本授業は記述統計学と推測統計学の理解とそれらの応用ができるまでを目標とする。 統計学とは何か、データの整理、平均値、分散と標準偏差、母集団と標本、正規分布、t分布、カイ二乗分布、F分布、母数の推定、仮説検定、分散分析、相関と回帰、保健統計について教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤 情報科学	現在、看護やリハビリテーションの分野に於いてもいたるところでコンピュータが使われ、それに関連する知識が求められている。本授業は情報の基礎知識と情報処理技術を修得させることを目標とする。 情報とは何か、情報の表現、情報科学の歴史、ハードウェアとソフトウェア、ネットワーク、ユビキタス、数値シミュレーション、コンピュータグラフィクス、医療分野の電子情報技術、表計算ソフトExcelを使ったデータの統計処理方法について教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤 人間工学	人間工学は、人に優しい技術、使いやすい機器、生活しやすい環境を創るために生まれてきた学問であり、いろいろな分野で広く応用されている。現代はコンピュータ技術、情報科学、システム工学などの進歩によって人間と機械との境界がなくなり、人間と機械・機器・システムの関係が変化してきている。 人間と機械の関わり、人間の運動特性と心理・感性、人間工学の応用とヒューマンインターフェース、医療技術と人間工学などについて、具体例に基づいて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活 心理学	現代の心理学は、人間についての科学的で総合的な理解を目標に、心の働きと行動について研究する学問である。治療やケアの対象となる人間の心理や行動を追究し、多面的に理解するための心理学の基礎(知覚や感覚、学習、記憶、情動や動機付け、思考や言語、発達、性格)を学ぶ。 また心理学を学習することで、自己理解や自己統制を助け人間形成にも役立つ。心理学の基礎知識、方法論を学習し、自他の理解について、心理学的なアプローチがあることを学習する。	
一般教育科目	人間と生活 生命倫理	遺伝子の化学的本体と機能が明らかになり、個体発生・個体の行動・社会形成などの高次の現象の基本設計も遺伝子情報にあることが浮き彫りにされた。また、生命科学の発達は新しい生命工学技術を生み、それを駆使して医療分野も著しい変革を遂げつつある。 先端医療技術の発達に伴って、生と死をめぐる考え方や医療従事者と患者の関係の有り方に大きな変動が起きており、生命倫理の諸問題が様々な議論を呼んでいる。 生命倫理学という新しい学問が成立してきた歴史的背景を追い、先端生命技術の現在を展望し、具体的な問題に即しつつ生命倫理について考える。	
一般教育科目	人間と生活 英語Ⅰ (社会と文化)	高校で学んだ基礎的知識を補強しつつ、基礎レベルの英文読解力・聴解力・英文作成能力・英会話力の充実を図ることを目的とする。日常的な文化・社会・国際問題などや学生が関心を寄せることができる身近な話題に関する英文のエッセイや記事を題材にして、語彙力の増加と基本的な構文の再確認及び英文の反復練習に重点をおきながら、上記の四つの英語コミュニケーション能力をバランスよく身につけられる学習を行う。	
一般教育科目	人間と生活 英語Ⅱ (健康と医療)	看護とリハビリテーションの領域における医療英語の読解・聴解・英文作成・英会話の四分野の基本的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。平易な英文で書かれた医療関係の情報の収集方法の習得と、英文記事などを読解するために、かつ簡単な英文を作成するために基礎的な医療英語の語彙・用語と文章表現を学習する。また臨床現場で簡単な英会話もできるように、医療英会話の基本的表現の聴解と運用の学習を行う。	
一般教育科目	人間と生活 英語Ⅲ (総合演習)	「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」の学習を基にして、医療・看護領域での総合的でより高度な英文読解力・聴解力・英文作成能力・英語によるプレゼンテーション能力の獲得を目指す。英文で書かれた医療・看護関係の論文・報告書・エッセイなどの読解を重点的に行う。また、論文の英文抄録記述のために、英文作成を実践する。さらに、これらの学習を通して、英語でのプレゼンテーション能力も育成する	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活 英会話（医療系英会話）	「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」と同時進行的に、日常生活と医療現場における英語によるコミュニケーション運用能力の充実と発展を図る。日常英会話と臨床英会話の基本的および発展的表現を反復練習して身につけ、それらをロールプレイングやドラマパーフォーミングなどの色々な英語運用方法を通して、日常や国際的な場で遭遇する外国人の患者や医療従事者との意思疎通が臆せずできる英語コミュニケーション能力を修得する。	
一般教育科目	人間と生活 スポーツ医学	スポーツ指導者がスポーツ医学に関する知識を持つことの重要性について理解を深め、スポーツ活動と健康（QOL）との関わりについて学習する。また世代、年代別の健康とスポーツ活動・運動についての考え方、スポーツ活動中に多いケガや病気について、その発生の原因や症状について理解し、救急処置の判断、処置方法を身につける。 （オムニバス方式／全15回） （全6回） 運動器の仕組みと働き、スポーツ医学の基礎知識、スポーツ活動が身体に及ぼす影響について学ぶ。また運動不足に起因する様々な疾患とその予防、スポーツで起こりやすいケガについて学ぶ。 （全4回） スポーツで起こりうる内科的障害や発育期の性差、体力の身体的・心理的特徴について学ぶ。また頭部外傷などの様々な状況での救急処置について学ぶ。 （全3回） アスリートの身体傷害（聴覚・視覚障がい）や特殊環境下での対策、対応（熱中症、過換気状態など）について学ぶ。 （全2回） 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給について学ぶ。	オムニバス方式
一般教育科目	人間と生活 スポーツ栄養学Ⅰ	健康保護、健康増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得るとともに、日々の食事を規則正しく摂取することが健康的なスポーツライフをマネジメントするための第一歩であることを学習する。また、水分補給の重要性についても学習する。 競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高める。競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。	
一般教育科目	人間と生活 体育Ⅰ	身体の発育発達と機能について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を教授する。また、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの理解を深める。	
一般教育科目	人間と生活 体育Ⅱ	スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して学ぶ。また実際に各種スポーツを体験することにより、スポーツの楽しさを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	社会の理解 フレッシュャーズセミナーⅠ	<p>新入生を対象とした必修科目であり、大学での4年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。</p> <p>内容としては、基礎学力向上する目的で、人体の構造に関する課題を与え、課題を遂行する事で知識の定着を図り、今後の勉学のモチベーションの向上を図る。そして、授業を行う中での医学的レポートの書き方、図書の活用方法を教授し、スムーズな学業への移行を支援する。</p> <p>また、患者接遇マナー、キャンパスハラスメントに対する対処法、学生を取り巻く課題としての消費者問題への対処法やアルコール依存、薬物依存などを防ぐための対処法、そして通学における車社会への対応、交通安全等に関する講義等を行い、4年間の学生生活への支援を行う。</p>	講義20時間 演習10時間
一般教育科目	社会の理解 フレッシュャーズセミナーⅡ	<p>新入生を対象とした必修科目であり、大学での4年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。</p> <p>また、医療に関わる専門職としては、医療チームと協働、顔の見える連携が必要であり、本学部の強みを活かし、リハビリテーション学科と看護学科の学生合同で授業を進めお互いの職種を知ることを目的とする。お互いの仕事内容の確認と医療現場におけるコミュニケーションを育てるための連携を目的とした授業を進める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (全2回) 理学療法士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 作業療法士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 言語聴覚士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 看護師の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全7回) 医療現場において連携を求められる場面について考え、医療現場における連携の実際、必要性について理解する。また、変化する医療現場に応じて新たな連携のあり方を模索する意識の獲得を図る。医療現場における組織全体との調和・連携、医療関連職種との連携、病院と地域との連携について教授する。</p>	オムニバス方式
一般教育科目	社会の理解 人間関係論	<p>人間関係における基礎的な知識、基礎的な技術について教授する。内容としては、人間関係における社会的相互作用やコミュニケーションにおける基礎的な知識や技術について教授する。あわせて、自己を理解することの必要性について教授する。さらに、医療職としての人間関係について、自己を理解することやクライアントを理解することを通し、クライアントとの関係づくりの基礎を教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	社会の理解 日本国憲法	日本国憲法に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。戦後日本の平和と民主主義の理念のもとに平和憲法である日本国憲法が制定された歴史を踏まえ、私たちの生活と権利を守る日本国憲法の基本的人権の精神を学び、日本国憲法を実際の生活に活かすことを目指す。同時に憲法は国家の動向を監視する役割もあり、国家のあり方を監視し私たちの生活と権利を守る存在としての日本国憲法の歴史的・現代的意義を学ぶ。	
一般教育科目	社会の理解 コーチング論	近年コーチングという概念は大きく変化しつつある。コーチングの手法はコーチが持つ人間観によってもパフォーマンスが左右される。人間が持つ本来の力をいかに発揮させるがコーチングの姿である。 講義では、理論とトレンドな情報、映像を交え、時には従来の精神主義、根性主義的なコーチングと現在のコーチングとの比較を試みながら、あるべきコーチングのあり方、効果的なコーチング手法を講義し時にはロールプレイを行い実践者としての理解を深めていきたい。 毎回レポートの提出を行い、コーチング理解の進捗状況を見極めながら講義を進める。	
専門基礎科目	人体の構造と機能 人体構造機能学Ⅰ	疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体の関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく人体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を教授する。 内容は、細胞の構造と働き、遺伝子の構造と役割、組織の分類と概要、消化器系、呼吸器系、体液と血液、循環器系、泌尿器系の構造と機能について取り扱う。	
専門基礎科目	人体の構造と機能 人体構造機能学Ⅱ	疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体の関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく人体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を教授する。 内容は、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系、生殖器系の構造と機能、生体防御・免疫、代謝・体温調節、睡眠と概日リズム、発生・成長・老化について取り扱う。	
専門基礎科目	人体の構造と機能 生化学	人は食物からエネルギーを取りだし、それを利用して生体内で行われる様々な生命現象を営んでいる。これら生命現象を化学反応としてとらえ、生体を構成する物質である、糖質・脂質・タンパク質などの代謝機序や、遺伝子発現の仕組みについての基本的な原理を教授する。また、さまざまな疾患と代謝異常、遺伝子との関係を学習することで、疾病の成り立ち、薬理学、栄養学の理解につなげる。 内容は、細胞の全体構造と機能、酵素、エネルギー物質の生成と利用、生体構成物質（糖質、脂質、アミノ酸・蛋白質、核酸）の種類・構造・性質と代謝、遺伝情報、遺伝子診断・遺伝子治療、先天性代謝異常などである。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療総論	人間の健康状態を科学的にアセスメントし必要な援助を考える上で、疾病に関する知識は不可欠である。これを理解するための科目として病態治療論を位置づける。病態学総論では、病態治療論Ⅰ～Ⅴの基礎となる疾病の概念と病因について教授する。 内容は、疾病の概念と病因、疾病の分類とその成り立ち、先天異常・代謝障害・循環障害の原因・経過・結果、炎症及び免疫異常の原因・経過・結果、腫瘍の原因・経過・結果である。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅰ(外科)	腹部胸部外科系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を教授し、診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。主に食道癌、胃癌、結腸および直腸癌、膵・胆管癌、肺癌、肺癌、心臓手術等の周手術期の医療ならびに術前術後の医療管理の方法と、再発を予防するためのセルフケアならびに術後の状態の現状維持と悪化を予防するための治療方法や生活指導等について教授する。 (オムニバス方式全15回) (全5回) 主に乳腺、食道、胃十二指腸、肝・脾、胆道、膵臓手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のための治療方法や生活指導等について教授する。 (全5回) 主に急性腹症、小腸、大腸、肛門、ヘルニア手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療について教授する。 (全5回) 主に胸部疾患の治療、肺癌、心臓手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のための治療方法や生活指導等について教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅱ(整形・脳神経)	運動器および脳・神経系における特徴的な疾患を取り上げ、疾患の発生機序と病態生理、主要症状と経過、診断の基準、検査・治療方法、予後について教授する。 (オムニバス方式全15回) (全8回) 脳・神経系の構造と機能および脳血管障害、膠原病、神経変性疾患、筋疾患等の代表的な脳・神経系の疾患の治療方法や生活指導等について教授する。 (全7回) 運動器を構成する骨・関節・神経・筋肉・腱の構造および先天性疾患、外傷、変性疾患、感染、腫瘍などの代表的な運動器疾患治療方法や生活指導等について教授する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅲ(排泄・感覚・歯)	人間の感覚器、排泄、口腔に関する疾患の機序、病態及び治療等について教授する。 (オムニバス方式全15回) (全4回) 腎・泌尿器領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(前立腺肥大・前立腺がん等)の病理及び主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。 (全4回) 耳・鼻・咽喉領域における、成長発達に伴う変化や特徴、疾患(中耳炎・副鼻腔炎等)の病理および主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。 (全3回) 眼科領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(白内障・緑内障・網膜剥離等)の病理及び主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。 (全4回) 歯科・口腔領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(う蝕・歯髄炎・歯肉炎等)の病理および主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅳ(呼吸・循環・血液)	呼吸・循環・血液系の疾患の病理及び主要症状の発現機序、診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。特に主要な気管支喘息・高血圧症・心不全・心筋梗塞症・白血病・貧血等の慢性疾患をもって生活維持するためのセルフケアの遂行と、悪化予防・現状維持の生活指導やライフスタイルの構築について教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病治療論Ⅴ(腎臓・内分泌・消化器)	消化・腎・内分泌系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を教授し、診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。特に主要疾患として、胃潰瘍・肝炎・肝硬変・腎炎・尿毒症・糖尿病等の疾患をもって生活維持するためのセルフケアの遂行と、現状維持の保持・悪化予防するための生活を可能にするための生活指導やライフスタイルの構築について教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 老年疾病治療論	<p>高齢者は複数の疾患を持ち、加齢現象と疾患が相互に影響しあうため、病態が複雑で症状の表れ方は非典型的であり、個人差が大きいのが特徴である。高齢者の加齢に伴う変化とその機序・病態生理を解明し、治療・症状の特徴や対処の方法を教授する。</p> <p>具体的内容は、老化と免疫、感染症、高齢者の臨床検査値、高齢者の腎・排尿・性功能、老年の骨折・骨粗鬆症・関節症、悪性腫瘍、感覚器の疾患、皮膚疾患、外科的治療などである。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 子どもの疾病治療論	成長発達過程にある子ども特有の疾病について、その病理及び主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法を教授する。 具体的には、先天異常、新生児の疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、ウイルス感染症、細菌感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液疾患、悪性新生物、泌尿器疾患、神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患、子どもの虐待などである。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 女性・周産期疾病治療論	妊娠や出産を中心とした「周産期」に関わる分野と、女性特有の疾患や女性器腫瘍などを対象とする「女性疾患」の分野について教授する。 （オムニバス方式全8回） （全4回） 「周産期」の分野では、ハイリスク妊娠、妊娠合併症（妊娠疾患、多胎妊娠、妊娠持続期間の異常、異所性妊娠）、異常分娩（産道の異常、胎児の異常による分娩障害等）の病態および診断と治療を教授する。 （全4回） 「女性疾患」の分野では、女性特有の卵巣・子宮癌などの疾患の症状とその病態および診断と治療を教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 こころの疾患治療論	精神医学とは精神の異常ないし病的状態（精神病）に対する医学である。おもに精神疾患、精神障害の分類と検査、診断、それらの成因、病態、治療方法などについて系統的に教授する。また、精神疾患を持つ人々だけでなく、その他の疾患を持つ人の心理的背景や、地域の人々の心の健康を考え、心理的背景を理解できるように促し、精神的、心理的回復援助につなげることができる基礎的知識を教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 リハビリテーション医学治療学	リハビリテーション医学における代表的疾患である脳血管障害、脳性麻痺、脊髄損傷、関節リウマチ、呼吸循環器障害に対する評価治療について教授する。特に、それぞれの疾患に共通する合併症については、その発生機序、予防的観点について、症例を通して教授する。また、リハビリテーション治療学における各治療の目的、特徴および具体的方法について教授する。さらに、虚弱老人に対する予防的側面を踏まえた転倒予防に関する取り組みについても教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学	病原体の観点からだけではなく、看護の視点から微生物を捉えられるよう微生物の特徴を人体の機能と関連させながら教授する。 具体的内容は、微生物の性質（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、人体と微生物の共生（微生物の生態系、常在微生物叢、人体の非特異的防御反応等）、共生のバランスの崩壊（侵入門戸、感染による人体の反応、主な病原微生物の特徴、感染症の現状、感染症の診断と治療、院内感染、感染症の予防手技）などを教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 臨床栄養学	対象者の健康状態を把握し、その健康レベルに合わせて、健康生活の維持・増進・回復への援助について教授する。さらに、その中で必要となる栄養は、個人が抱える健康障害との関連も大きいと、多角的に栄養に関するアセスメントができるための基礎知識、療養生活と栄養、食事指導等について教授する。 (オムニバス方式全8回) (全4回) 栄養状態の評価と栄養摂取量、病院食の特徴と種類、摂食・嚥下障害や代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、高齢者の特徴と栄養の基本等について教授する。 (全4回) 代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、妊産婦・小児の特徴と栄養の基本、褥瘡対策やNSTの活動等について教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学	医療において薬物療法は重要な治療法である。看護師は患者の状態をアセスメントし指導する上で、また、医療事故を防止するためにも薬物に関する知識が不可欠である。看護する上で必要な薬理の知識をまとめて教授し、各病態治療論や看護学につなげる。 具体的内容は、薬物の作用と体内動態、薬効に影響する因子、薬の有害作用、中枢神経作用薬、ホルモン・オートコイド、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系・皮膚及び眼作用薬、ビタミン、化学療法薬、抗感染症薬、消毒薬などについて教授する。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制 チーム医療論	医療に携わる専門スタッフには、職能の発揮だけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが求められる。そのためには、各専門スタッフの職域を理解し、それぞれに課された役割を理解する必要がある。 内容は、チーム医療の歴史、必要性、実際、各専門職域と役割、医療現場における事例である。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制 看護と法律	看護職が活動するために必要な保健・医療・福祉制度について教授する。また、医療を取り巻く環境、労働環境等、医療や看護領域に関連のある法律について教授する。 具体的内容は、法規の概念、衛生法規、医事法(特に保健師助産師看護師法、医師法、歯科医師法、医療法および薬剤師法等の医療関係資格に関する法律)、薬務法規、保健衛生法規、予防衛生法規、環境衛生法規、社会保険法規、福祉法規、労働および社会基盤に関する法規等である。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度 保健予防活動論	<p>看護師が医療現場で患者や家族の達成可能な健康レベルの到達を支援するためには、地域社会において提供される公衆衛生サービスの内容とその科学的根拠を十分理解し、最も適したサービスを助言できる必要がある。当該科目では、人間集団の抱える健康問題を解決するための重要な科学的手段である疫学の考え方とライフステージに応じた各種保健施策や環境衛生施策の背景について教授する。</p> <p>内容は、各種健康施策の現状と課題（母子保健・学校保健・産業保健・老人保健）、環境施策の現状と課題（食品衛生・空気・水・廃棄物）などである。また、人間集団の抱える健康問題を解決するための科学的手段としての疫学の考え方や方法を用い、健康や環境に関する現状や課題を演習形式にて教授する。</p>	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度 環境と健康	<p>環境の変化は人々の生活に影響し、社会的な問題となっている。また、人口動態の変化や疾病構造の変化も社会的な問題となっている。人々の健康な生活を支援する者として、これらに関する知識をもち広い視野で医療技術を考えなければならない。ここでは「生活と環境」をあらゆる角度から捉え、健康に及ぼす影響と健康を保つための施策を理解し、生活への援助に活用できる能力を養う。</p> <p>内容は、生活環境と健康、教育環境と健康、労働環境と健康、人口動態と健康指標、疾病予防と健康管理、健康と衛生行政等である。</p>	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度 生涯発達心理学	<p>近年、生活や教育における様々な人間の発達に関わる問題が多くなってきている。人間の生涯にわたる精神発達を学習する必要性について学び、その後、子どもから成人になるまでの変化・発達について学習する。</p> <p>ピアジェやエリクソンの発達理論をベースに各段階についての代表的な心理学的アプローチと知見を学び、老年期および死と死の受容についても心理学的な理解を深め、支援のあり方について考える。</p>	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度 健康教育論	<p>健康教育論の目的は、健康問題が起こらないようにする（予防）、おこってもすぐ対処できるようにする（早期発見・早期治療）、健康問題を解決する（治療）、完全に解決して社会復帰する（リハビリテーション）、よい方向に向かわせるという意味あいを含む。個人が健康的な生活習慣を確立できるように、社会環境の整備とともに、教育面から支援を行い、行動変容への動機付けや、行動変容に必要な知識・技術の習慣を促すことが必要となる。</p> <p>具体的内容は、健康教育の定義、セルフケア論、行動科学と健康教育、健康教育の発展過程、KAPモデル、プリード・プロシードモデル、健康教育と行動変容、自己効力感と健康教育、健康教育の方法等について教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度 社会福祉学	<p>社会福祉事業とは何かにはじまり、社会福祉の法制、サービス体系、社会福祉の経営、財政、民間社会福祉活動あるいは高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度、福祉専門職と関連職種との連携など社会福祉の全体像を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (全8回)</p> <p>社会福祉の概論を中心に、社会福祉の歴史、社会福祉の方法論(個別的援助、集団的援助)を包括的に教授する。また高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度について教授する。 (全4回)</p> <p>地域福祉を中心に、在宅における地域包括ケアシステム、地域包括支援センターのあり方を教授し、地域リハビリテーションの根幹を学ぶ。 (全3回)</p> <p>精神保健福祉を中心に、精神科領域の社会福祉制度について学ぶ。ノーマライゼーションの考え方の浸透により、精神疾患患者の在宅における生活のあり方、グループホームのあり方について教授する。</p>	オムニバス方式
専門科目	基盤看護学 看護の基本となる概念	<p>我が国では高齢多死社会化が進むといわれている。移り行く社会の中で看護及び看護学のありようは今後さらに大きく変化し続けることが予測される中、初学者にも「看護とは何か」を考え、そのために必要な知識を身に付けることが求められる。看護活動の受け手である「人間」、その人間が心身ともに良好な状態であるためには、「健康」であること、その「健康」は人間を取り巻く「環境」と密接な関係にある。当該科目では、「人間」「健康」「環境」の視点より「看護とは何か」を考え、自己の看護観を形づくっていくために必要な知識等について教授する。</p> <p>具体的内容として、看護及び看護職の定義、拡大している看護の役割と機能、看護の対象、国民の健康と生活、看護の職業としての確立、専門職としての看護職の養成と就業の実際、看護活動と倫理、看護活動の提供と拡がり等である。</p>	
専門科目	基盤看護学 看護の過去と未来	<p>社会が過去-現在-未来を通じて多様かつ複雑に変化し続ける中で健康への関心は高まり、看護においても保健医療福祉を統合したケアの時代を迎え活動している。これまでに起こった事実、現在も変化し続ける事実、さらには今後起こりうると思われる諸事に触れ、求められている看護、必要とされる看護、未来に向けたこれからの看護について教授する。</p> <p>具体的内容として、看護の誕生から近代看護に至る変遷とその事実に含まれている意味、第二次世界大戦までの看護の変遷とその意味、今日の看護と未来への課題等について、看護実践や移り変わる看護教育の視点などから把握し考える。</p>	
専門科目	基盤看護学 生活を支える看護 I	<p>看護を学ぶ上で基本となる方法論や人間を把握するための援助技術について、対象の身体的・心理的・社会的側面の意義を踏まえ、理論的な根拠に基づいて考え実践できる能力を養えるよう教授する。</p> <p>内容は、環境調整の技術、活動・休息の援助技術、感染予防の技術、食事の援助技術など、講義・演習を通して教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤看護学 生活を支える看護Ⅱ	看護を学ぶ上で基本となる方法論や人間を把握するための援助技術について、対象の身体的・心理的・社会的側面の意義を踏まえ、理論的な根拠に基づいて考え実践できる能力を養えるよう教授する。内容は、清潔・衣生活の援助技術、排泄の援助技術など、講義・演習を通して教授する。	
専門科目	基盤看護学 看護コミュニケーション	看護師に求められるコミュニケーションは、看護の対象となる人や家族をケアするためには必須であり、また同時に看護師間や他職種との連携においても必要不可欠である。知識だけではなく実践できる技術として習得できるよう教授する。内容は、コミュニケーション論、看護におけるコミュニケーション、臨地実習で遭遇する事例をもとに講義・演習を通して教授する。	
専門看護	基盤看護学 看護実践力Ⅰ	あらゆる健康レベルにある人々への看護実践を行うために、実践的、包括的かつ実体験のように感じられるようシミュレーションをベースに、対象の複雑な病態や状況に対して、既習学習を統合させながら臨床判断を行い、学びを積み重ねながら看護実践能力を高めるための技能を教授する。 本授業は思考力の強化を主眼とし、情報の枠組みを活用しながら看護過程を行い、特に気づくトレーニングを行う。	
専門看護	基盤看護学 診療・検査に伴う看護	病気の検査や治療を受ける患者への援助は、看護師の重要な役割であり、正確性・安全性・安楽性、さらには高い倫理観が求められる。患者が安心して医療を受けることができるように必要な知識、技術、態度について教授する。 内容は、呼吸・循環など生命維持に必要な看護技術、創傷管理、感染予防技術、検査時における看護師の役割等であり、人体の構造や疾病を看護の視点で考え、看護が実践できるように、講義や演習を通して教授する。	
専門科目	基盤看護学 薬物と看護	近年の医療には薬物療法が不可欠であり、患者と直接関わる看護師は、薬物が身体に与える影響や与薬方法などについて、高度な知識や判断力が求められる。薬物が患者に適切に与薬され、適切に効果を発揮するまでのプロセスを踏まえ、患者が安心して薬物療法を受けるために必要な知識、技術について教授する。 内容は、薬物療法の意義、年代や病態に応じた薬物療法、内服や注射、点滴などの看護技術等であり、患者が安全・安楽に薬物療法を受けることができるように、講義や演習を通して教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基盤看護学	生命を守る看護	<p>患者の最も身近にいる看護師は、観察や医療的判断等の実施により、患者のいのちをまもることが求められる。患者の身体的状態を観察し、病態の変化に気づき、適切な医療につなぐ行動がとれるために必要な知識、技術、態度について教授する。</p> <p>内容は、人体の構造と機能を看護に活用する視点、フィジカルアセスメント、気づく力と看護師の行動等であり、講義や演習を通して教授する。</p>	
専門科目 基盤看護学	看護管理	<p>医療、看護を取り巻く環境をふまえ、社会のニーズに対応した質の高い看護実践を行うために必要な看護マネジメントの機能について教授する。</p> <p>具体的には、看護を取り巻く諸制度、看護サービスマネジメント、看護における人材育成、看護ケアマネジメントである。</p>	
専門科目 基盤看護学	看護と医療安全	<p>医療の質保証・向上につなげるためには、医療安全を保証することが重要である。医療安全の根幹となる原理・原則、ノンテクニカルスキル、失敗から学ぶ姿勢、レジリエンス力について教授する。また、医療関連感染対策は、患者の安全を守ることに直結することから、地域および病院・各施設内において発生する感染症のメカニズムや予防策、感染予防に関わる看護師の役割と責任、および組織管理について教授する。</p> <p>これらのことを理解したうえで、実習や看護の現場で起こりうる医療事故について、事例を通して、患者の安全を守るための思考や行動がとれるように、講義や演習を通して学習する。</p>	
専門科目 基盤看護学	キャリア開発入門	<p>実践現場において求められる社会人基礎力と、看護専門職としての役割を理解し、自己理解ならびに批判的思考を重ねながら、今後のキャリア（生き方、働き方）について考えられるよう教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤看護学 看護研究方法	<p>看護実践上の疑問や問いを明らかにしていく方法、文献のクリティークの視点、研究計画書作成の基本を教授し、看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲへの基礎とする。その学習過程の中で、看護研究に取り組む基本的態度と基礎的知識を教授する。</p> <p>授業内容としては、看護における研究の意義と目的、研究デザイン、データ収集方法、文献検討や研究計画書の作成、研究倫理など研究過程の概要である。 （オムニバス方式全15回） （全5回）</p> <p>研究とは何か、その意義や接し方について概観を説明する。また、主に量的研究のデザインやデータの分析方法について教授する。 （全7回）</p> <p>主に、質的研究デザインと特徴、質的研究のデータ収集・分析、論文のクリティークについて教授する。また、近田教員とともに、クリティークの実際について演習形式で教授する。 （全7回）</p> <p>主に、看護研究の倫理、研究デザイン、研究計画書の作成について教授する。また、吉田教員とともに、クリティークの実際について演習形式で教授する。</p>	オムニバス方式
専門科目	基盤看護学 看護研究Ⅰ	<p>看護研究方法で学んだ知識をもとに、学生の臨地実習の体験や看護学の学修から、学生自身が興味や関心を持った看護に関するテーマを選定し、文献を検索し検討する。</p> <p>看護学の領域あるいは関心のあるテーマの共通性から学生の希望に沿ったグループを作成し、各指導教員とともに、収集した既存の研究論文について、演習を中心としてクリティークし、文献検討の結果をまとめることにより、看護研究への関心と理解を深め、自らが探求していく能力を養う。</p>	
専門科目	基盤看護学 看護研究Ⅱ	<p>看護研究Ⅰの成果を活かし、研究テーマを明らかにし、研究方法を検討し、研究計画書を作成する。</p> <p>各担当教員の指導を受けながら、学生自らが、研究計画書作成に向けて、テーマに関連する文献を精緻に調べ、自身の研究テーマを明確にし、テーマに沿って研究デザイン、データ収集方法、分析、倫理的配慮等の研究方法を検討した研究計画書を作成する。</p>	
専門科目	発達領域別看護学 女性のライフサイクルと看護	<p>女性の生涯を通じた健康の保持・増進と看護について教授する。</p> <p>リプロダクティブ・セクシュアルヘルス/ライツに関する知識（男女の性の分化と特徴、妊娠の成立や家族計画、性感染症、不妊、DV・乳幼児虐待等）および、女性や家族を取り巻く社会や保健の現状とその動向、対応する法制度と施策の経緯、女性や育児性の発達、家族・母子関係の形成・発達の主要理論を踏まえて、女性のライフサイクル各期の特徴と健康課題への予防を含む看護を理解することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発達領域別看護学 母子の健康と看護Ⅰ	<p>周産期における母体と胎児・新生児の身体的変化、心理・社会的変化の特徴と各期に応じた対象とその家族に対する看護について教授する。</p> <p>妊婦・産婦の生理的な経過や胎児の成長発達、起こりやすい健康問題についての予防的な看護および、褥婦・新生児の生理変化と適応の特徴と家族の変化を踏まえた看護や生活・育児支援を理解すること、さらに、ハイリスク妊娠、妊娠合併症・合併症妊娠、異常分娩・産褥、ハイリスク新生児と新生児の異常について、病態と看護を理解することを目標とする。</p>	
専門科目	発達領域別看護学 母子の健康と看護Ⅱ	<p>妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に必要な技術を演習を中心に教授する。</p> <p>妊産褥婦・新生児の情報収集・アセスメントのための観察・診察の技術、母子への看護実践のための具体的な援助技術について、正常経過を辿る妊婦から産婦・褥婦・新生児の事例の看護展開を通して、社会資源の活用および、その時期に主要となる看護技術の考察と習得を図る。以上、母子の健康と看護Ⅰの知識を活用し、実習を行う上で必要な看護実践能力を養うことを目標とする。</p>	
専門科目	発達領域別看護学 子どもの成長発達と看護	<p>成長発達過程にある子どもの特徴とヘルスプロモーションを踏まえて子どもの看護の基盤となる知識について教授する。</p> <p>小児看護学の変遷、小児保健の動向、子どもの権利、小児看護の特徴と理念、子どもの成長・発達と養育及び看護、子どもの生活環境や発達に関連した健康問題や課題について理解することを目標とする。</p>	
専門科目	発達領域別看護学 子どもの健康障害と看護Ⅰ	<p>子どもの成長発達に関する基礎知識を基に、病気や障がいを持つ子どもとその家族への看護について教授する。</p> <p>疾病・障がいを持つ子どもと家族の看護、子どもの疾病の経過と看護、生活制限のある子どもと家族の看護、疾病の症状を示す子どもへの看護、入院・外来・在宅における看護、NIC・GCUの看護、災害時の看護、子どもの虐待とその看護について理解することを目標とする。</p>	
専門科目	発達領域別看護学 子どもの健康障害と看護Ⅱ	<p>子どもの成長発達に関する基礎知識を基に、子どもの発達や健康の回復・保持増進に向けた支援技術を教授する。</p> <p>具体的内容は、子どもとその家族への関わり方とコミュニケーション、子どもの特徴や全体像の把握方法・アセスメントに必要な技術、検査・処置を受ける子どもへの看護技術、子どもの心肺蘇生法、子どもに多い事故や外傷とその対処方法や事故防止のための育児指導について理解することを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発達領域別看護学 思春期健康論	思春期の身体的・心理的・社会的特徴とこの時期に起こりやすい健康問題、ライフサイクルにおける思春期の重要性、思春期の保健教育について教授する。 思春期の身体変化の受けとめや妊娠・出産、性感染症や喫煙・違法薬物の摂取、デートDV、摂食障害などの課題について、ピアエデュケーションとして演習を行い、思春期健康教育のあり方を体験的・実践的に修得することを目標とする。	
専門科目	発達領域別看護学 大人の健康と看護	大人の健康と看護の概略として、大人の生活と健康と看護アプローチの基本、大人の健康レベルに対応した看護と健康生活を促すための看護技術について教授する。 具体的内容は、大人の生涯発達と生活、大人の生活を取り巻く社会や環境、大人の看護の基本となる考え方と方法論および健康レベル対応した看護、大人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術について教授する。	
専門科目	発達領域別看護学 高齢者の健康と看護	生活者としての高齢者を基盤として、病気や障害をもちながらもその人らしく生活するための支援を視点とする。そのためには、理論を含めて老年期としての捉え方や健康観について教授する。 加齢による身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな変化、超高齢化社会における人口動態の変化、高齢者疾病や死亡および少子高齢化との関係・家族関係、および高齢者虐待、また高齢者のケアリングについては、看護倫理やQOL、高齢者医療、介護保険制度について理解することを目標とする。	
専門科目	発達領域別看護学 健康課題をもつ高齢者の看護	進行速度の異なる加齢変化、慢性疾患や障害をあわせもつ高齢者に特有の健康障害、疾患、看護について教授する。また、人生の最終期にある高齢者の終末期の看護と家族支援について教授する。 高齢者の病気の特徴、入院・検査・薬物療法を受ける際の身体侵襲と看護、手術を受ける高齢者の看護、高齢者に多い循環器疾患・呼吸器疾患・パーキンソン病・骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折・白内障・前立腺肥大症・認知症の看護、高齢者の終末期看護と家族のケアを理解することを目標とする。	
専門科目	発達領域別看護学 高齢者の生活支援と看護	加齢に伴う機能の変化が高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者の特徴に配慮し、QOLの向上や自立に視点をおいた看護技術や生活援助について演習を中心に教授する。 高齢者の特徴と情報の収集と把握枠組み、高齢者のフィジカルアセスメント、高齢者とのコミュニケーション技術、高齢者の食生活、清潔・口腔ケア・身だしなみを整える技術、尿失禁と排泄の自立、転倒・転落を予防するための技術、廃用症候群、褥瘡を予防するための技術の考察と習得を図る。以上、健康課題をもつ高齢者の看護の知識を活用し、実習を行う上で必要な看護実践能力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門領域別看護学 地域の人々の理解	地域で生活する人々の生活と健康について教授する。 具体的内容は、地域で生活している人々、生活と健康等である。	
専門科目	専門領域別看護学 地域で生活する人々の健康と看護	広域で看護が必要とされる社会的背景を理解し、看護を展開する上で必要な基礎知識を教授する。 在宅看護は高齢多死社会、人口減少社会を迎えるわが国において、今後ますますニーズが高くなる。国民の誰もが、人生の終焉まで住み慣れた場所で自分らしく生きられるような看護支援を行うことができるよう、本科目では在宅看護の理解を促進することに本科目の特徴がある。 具体的内容は広域で実践される看護の概念・特徴、広域で実践される看護の種類と内容、看護の継続性、広域で展開される看護の理解を促す理論、倫理的課題等である。	
専門科目	専門領域別看護学 在宅生活を支える看護Ⅰ	在宅療養の主体である利用者、家族が住みなれた場所で、日常生活の中に安心安全な療養生活を織り交ぜながらおくることができるよう支援する看護技術を教授する。 内容は、継続看護（退院調整・支援）、在宅リスクマネジメント、家族の潜在能力を引き出す技術、療養生活に伴う日常生活の援助技術、医療処置に伴う看護技術、難病療養者・ターミナルケアに関する看護技術などである。	
専門科目	専門領域別看護学 在宅生活を支える看護Ⅱ	療養者と家族をケアの一単位として捉え支援する視点から、既存の学習を統合、分析して支援に結びつける一連の看護を教授する。 具体的内容は、①高齢者の療養生活を支える社会制度と看護支援、②障害児・者の療養生活を支える社会制度と看護支援、③難病患者の療養生活を支える社会制度と看護支援、④難病療養者と家族の事例に基づくケアマネジメントとケアプラン、⑤在宅療養者と家族を理解する情報収集と把握枠組み、⑥在宅療養者と家族を支援するリハビリテーション看護などである。	
専門科目	専門領域別看護学 こころの健康と看護	精神保健上の問題を抱えた対象を理解するため、人間の精神構造の機能や病の経験について教授する。また、精神医療と看護の歴史の変遷、精神医療福祉に関する法律を概観しながら、精神医療における人権と倫理に関する基礎的能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	専門領域別看護学 こころの疾患の理解と看護Ⅰ	精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者を支えるために必要な基礎的知識と技法、ならびに人権と安全を守る看護を実践するための方法について教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門領域別看護	こころの疾患の理解と看護Ⅱ	精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者を支えるために必要なアセスメントの知識や状態に応じた看護の方向性の視点について教授する。	
専門科目 専門領域別看護学	周手術期看護	健康問題が急性期状態（周手術期）の対象に対して命を護り、対象がもつ自然治癒力を最大限に発揮して健康を回復し、生活の質を低下させないための看護援助を教授する。 具体的内容は、周手術期の対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴、意思決定にかかわる支援をはじめとする周手術期の看護師の役割、手術侵襲に対する生体反応、手術・麻酔に関する看護問題と回復を促進する周手術期（術前・術中・術後）の過程に応じた看護援助、開腹・開胸・開頭・運動器の手術の経過と術後合併症の予防および回復を促進する看護援助、術後の生活指導とライフスタイルの構築への支援について教授する。	
専門科目 専門領域別看護学	リハビリテーション看護	リハビリテーション看護は、生活機能障害を有する人のQOL（Quality of Life）を向上するという目的を有する活動である。さまざまな看護援助を創造するために必要な概念・理論を教授する。また、多様な生活機能障害への援助を実践的に考えていくことができるよう具体的な援助方法を教授する。さらに、リハビリテーション看護に特有の倫理的課題を検討し、倫理的感性を養うことを目標とする。	
専門科目 専門領域別看護学	生活再構築を支援する看護	生活機能障害をもつ対象を理解し、機能障害に対する受容と自己概念、生活の再構築にむけたリハビリテーションを支援するための看護の具体的方法について教授する。また、慢性疾患をもつ対象に対して、セルフケアの維持・向上を促し生活を再構築する（セルフマネジメント）ための看護の方法について教授する。さらに、退院支援にむけた保健医療福祉チームとの連携と看護師の役割について教授する。	
専門科目 専門領域別看護学	エンド・オブ・ライフケア	あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における人生の終焉にある人々とその家族のもつ全人的苦痛（身体的・精神的・社会的苦痛およびスピリチュアルペイン）を理解し、その具体的な援助方法について教授する。授業を通して、自己の価値観・死生観を意識化し、エンドオブライフに際した対象者にとって最善のケアを学生自ら考察し、考察した内容を教員とともに検討する過程において、看護職者としての倫理観・看護観を育みながら知と技の活用方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門領域別看護学 クリティカルケア看護	クリティカルケアを必要とする生命危機状態にある重症患者の身体的・心理的・社会的側面を理解し、患者の生命を護り支え、家族を支える援助方法について教授する。 具体的内容は、クリティカルケア看護の基本的概要、クリティカルケアが必要な患者の身体的・心理的・社会的特徴および家族の特徴、クリティカルケアを必要とする患者・家族への援助方法、クリティカルケア看護における倫理的課題について教授する。	
専門科目	専門領域別看護学 看護理工学	看護理工学とは、人々の健康・疾病に関する「療養生活の支援」を目的として、看護の視点を重視した研究を指し、新たな技術開発を行う学問領域と定義されている。人々の生活の支援を目指すために、まず人々に起こっている問題の抽出の方法から、理工学との連携方法と新たな看護技術開発までの過程を教授する。問題の抽出に当たっては、学生主導で行い自ら考えだす力や、教員や他の受講者との対話から、事象を柔軟にとらえる力を養うことを目標とする。	
専門科目	専門領域別看護学 医療的ケア	医療的ケアが必要な子どもが、地域で生活できるための看護について教授する。 具体的内容は、増加する医療的ケア児とその家族の現状、喀痰吸引等制度、保健・障害福祉・保育・教育等における医療的ケアの現状と連携体制、子どもへの医療的ケアに関する看護技術である。	
専門科目	専門領域別看護学 看護実践力Ⅱ	あらゆる健康レベルにある人々への看護実践を行うために、実践的、包括的かつ実体験のように感じられるようシミュレーションをベースに、対象の複雑な病態や状況に対して、既習学習を統合させながら臨床判断を行い、学びを積み重ねながら看護実践能力を高めるための技能を教授する。 本授業は実践力の強化を主眼とし、コンセプト学修を行いながら臨床判断トレーニングを行う。	
専門科目	専門領域別看護学 看護実践力Ⅲ	あらゆる健康レベルにある人々への看護実践を行うために、実践的、包括的かつ実体験のように感じられるようシミュレーションをベースに、対象の複雑な病態や状況に対して、既習学習を統合させながら臨床判断を行い、学びを積み重ねながら看護実践能力を高めるための技能を教授する。 本授業は実践力の強化を主眼とし、療養者の療養過程を追いながら臨床判断し看護ケア提供する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	専門領域別看護学 認知症看護援助論	「認知症を知る」ことと「認知症高齢者を理解する」ことを通して、老年期における認知症の発現過程と認知症高齢者の看護について教授する。 具体的内容は、認知症の予防、生活管理、認知症高齢者の対応、介護負担、社会資源を活用した認知症看護・介護者支援などである。また、認知症高齢者のQOLの向上にむけ、日常生活・社会生活に適応するための生活環境のとのえ方やリスクマネジメントについて理解を深めることを目標とする。	
専門科目	専門領域別看護学 家族看護学	家族は家族成員が互いに関わり合って生活しており、家族をケアの一単位として捉え支援する必要がある。多様な家族の在り方を概観し、家族の持つ力を活かしながら看護介入する基礎的知識を教授する。 内容は、家族の捉え方、家族の持つ力、家族看護方法、事例検討などである。	
専門科目	専門領域別看護学 国際看護学	世界の人々の健康、社会の現状や課題を把握し、国際看護学の意義・役割、国際協力と活動組織、国際看護活動の必要性について、実際の看護活動事例を示し教授する。また、自国の文化とは異なる日本社会で生活する在日外国人の健康や生活について把握し必要な看護支援の実際を教授する。	
専門科目	専門領域別看護学 専門職連携論	多職種が互いの専門性を活かしながらチームとして連携するために、相互の専門性を理解し合い、ニーズに応じた連携を実践するための基礎的機能を教授する。 内容は、専門職連携が必要とされる背景と必要性、多職種連携コンピテンシーアサーティブコミュニケーション、多職種の専門性の理解、連携の実践とその評価等である。	
専門科目	専門領域別看護学 災害看護学	災害医療の概要と災害が人間生活におよぼす影響を理解し、災害看護の基本的な心構えや姿勢について教授する。また、災害医療システムや災害医療サイクルについて理解し、災害看護の展開に必要な判断力や技術を教授する。 具体的内容は、災害の定義と分類および特性、災害時の人間の行動、災害の多面性と情報の大切さ、災害医療、救急医療体制、国際支援システム、災害サイクルと各期に特徴的な健康問題と回復過程および医療・看護、トリアージの概念・方法、ストレス反応、被災者の生活の理解、災害状況に応じた活動現場における看護、多職種との連携、看護職をはじめとする各専門職の役割や対応等について教授する。	
専門科目	臨地実習 看護体験実習	実習は、実際に病気を治療中の対象（人間）に対して看護援助を提供している現場を見学し、体験的に学習することである。看護活動の対象となる人間が療養している場や、提供されている看護実践を見学することで、看護の機能と看護師の役割を知り、看護のメタパラダイム（人間、環境、健康、看護）を考える動機づけにつながるようになる。 また、対象（患者、医療従事者等）との関わりを通して、看護学生としての態度や姿勢を理解し、自己の課題を明確にできるよう教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨地実習 生活支援実習	看護の対象である人間を把握するために、身体的・精神的・社会的側面から情報収集を行い、看護実践能力Iで学習したヘンダーソンの看護過程の枠組みを用いて、アセスメント、看護診断、計画を立案する。また、既習している技術を用いたケアの実施、評価ができるよう教授する。	
専門科目	臨地実習 対象理解の実習	保健・医療・福祉において、看護の対象を理解するために、生涯発達の視点から小児期、成人期、老年期にある人々の健康や環境および看護の役割について教授する。 内容としては、小児期は、子どもの身体的・精神的・社会的発達の特徴を理解する。また、子どもの健康における看護の役割を考える機会とする。成人期は、健康な大人の身体的、精神的、社会的発達の特徴を理解する。また社会において人々が生活を営むうえで、中心的な役割を担う立場にある生活者の実態について理解し、健康行動における看護の役割について考える機会とする。老年期は、高齢者の身体的、精神的、社会的変化の特徴を理解する。また、老年期の生活者の実態について理解し、健康を維持する看護の役割について考える機会とする。	
専門科目	臨地実習 育成期看護学実習Ⅰ(周産期)	妊産褥婦と新生児に必要な看護の方法を実践的に理解し周産期の看護の基礎的な能力を養う。 実習の内容は、受け持ち褥婦と新生児の看護過程の展開(看護実践を含む)、分娩見学・予定帝王切開術見学と産婦の看護と生命について考察、外来妊婦健診見学事例の妊娠経過と保健相談のアセスメントである。実習施設は産婦人科診療所施設を用い、事前に周産期の看護の知識・技術を確認、実習中は実習記録内容の指導により、周産期の看護を体験的に理解できることを目標とする。	
専門科目	臨地実習 育成期看護学実習Ⅱ(子ども)	成長発達過程にある子どもとその家族を理解し、健康レベルに応じた看護が実践できる基礎的な能力と態度を育成できるよう教授する。 内容としては、こども園、小児病棟、小児科外来における子どもとその家族への日常生活援助、環境調整、健康増進と疾病の回復への援助、成長発達の促進のための援助についてである。	
専門科目	臨地実習 老年看護学実習	複数の慢性疾患を抱え、生活障害を持ちながらもその人らしく生活できるよう援助するための老年期における看護実践について教授する。 具体的内容は、高齢者の生活史を知り、現在の生活について理解する。加えて、疾病の理解、健康障害の程度、生活障害についての受け止め方や家族への思いについて、二次的合併症の予防、発達課題、高齢者の尊厳と倫理的配慮について理解する。さらに、生活における生活機能の向上のための援助、医療・保健・福祉の各専門職をチームメンバーとしての介護士・看護師の役割や機能について理解する。以上より、老年期の健康を維持するための看護実践の基礎的な能力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨地実習 広域看護学実習	保健医療福祉制度の活用と多職種連携を行いながら対象に応じた看護実践の基礎的能力と態度を養う。 内容は、内容を地域における一次予防、二次予防の実際、利用者と家族を一単位とした看護支援、連携・協働、退院調整と支援の実際、利用者と家族の望む生活を支える支援等である。	
専門科目	臨地実習 周手術期看護実習	手術により健康破綻をきたす患者の術前・術中・術後の状態を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解し、周手術期の健康レベルに応じた患者中心の看護実践について教授する。 手術前・手術中・手術後の患者を受け持ち、身体・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・実施・評価の一連の段階を踏まえて周手術期患者の回復過程を促進するための看護実践の基礎的能力を養うことを目標とする。	
専門科目	臨地実習 生活再構築看護実習	生活機能障害のある患者または慢性疾患をもつ患者を受け持ち、対象のライフプロセスをふまえて疾患・治療および各機能障害が身体的・心理的・社会的側面に及ぼす影響についてアセスメントし、看護診断、計画立案、実施、評価の一連のプロセスをふまえて、対象の生活の再構築を促進するための看護実践の基礎的能力を養うことを目標とする。また、健康障害のある対象の退院支援の実際を体験し、在宅復帰を支える専門職間の連携および地域連携について考察する。	
専門科目	臨地実習 エンド・オブ・ライフケア実習	対象者（その家族を含む）が人生の終焉まで尊厳を保てるよう、全人的苦痛の状態のアセスメント、病状をコントロールし心安らかな時間を提供できるような援助方法について、立案し実施する過程において習得する。対象者の意思決定を保証し、希望を支えられるケアについて、多職種で行うトータルマネジメントの実際について見学し考察する。学生自身が行った看護について、論理的・批判的思考を用いて振り返り、最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察する。	
専門科目	臨地実習 精神看護学実習	精神看護学実習では、対象との関係性を構築しながら対象理解ならびに自己洞察を深め、ストレングスの視点から必要な看護計画を立案・実施する。このプロセスを通じて、精神保健上の問題を抱えている人々を生活の観点から理解し、自らをケアの道具として活用し、必要な看護の方向性を導き出すことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨地実習 看護統合実習	マネジメントの視点で既習の学びを統合し、看護の対象および看護実践現場の特性をふまえて対象に必要な看護を展開するための総合的能力を養うことを目標とする。また、病院における療養生活と継続看護を支える保健医療福祉チームとの連携を理解し、チーム医療の中で看護師としてのリーダーシップ、メンバーシップを実践する能力を養うことを目標とする。さらに、看護ケアの質を保証するためのシステム、整備および看護師の調整役割について考察する。	
養護科目	- 学校保健	児童生徒の心身の健康状態を理解し健康の保持増進を図るために、学校生活や学習活動に必要な健康や安全について、その問題や予防等の対策について学ぶ。また、学校保健の実践が児童生徒の発達に対して果たす役割を理解する。さらに、養護教諭の役割、専門性、関連する教職員の役割など具体的な活動等について学習する。	
養護科目	- 養護概説	「養護」の定義・概念、養護教諭の専門性、学校における保健室の役割機能等を理解し、養護教諭としての活動についてその基礎を学ぶ。主な内容として、学校保健安全に関する法律の理解、保健室の機能や経営に関する理解、学校保健活動などについて学ぶ。また昨今健康上の問題とされているアレルギー性疾患をもつ児童・生徒への健康管理や指導、感染症罹患への予防対策について学ぶ。さらに、増加している心の健康について、問題への対応や養護教諭や保健室の役割、学校の教員やカウンセラーなどの他職種との連携した対応について学ぶ。	
養護科目	- 健康相談活動の理論及び方法	わが国において社会が抱える多くの問題と、教育の現場において行なわれている健康相談活動には強い関連があるといわれている。これらの現状について理解すると共に、対象となる児童・生徒が成長発達段階の途上にあることからすると、多方面の専門分野の専門家と連携をとりながら適切に対応していく必要がある。このために必要な健康相談活動の基本、学校教育との関連、健康相談活動を行なうに必要な理論や専門的な技法について理解する。また具体的な他職種との連携を密にした活動の方法について学ぶ。	
養護科目	- 食品学	健康に生きていくために必要な栄養成分を含む食品についての知識、食品と人間の関わりについて学ぶ。主な内として、食品に関する栄養学的特性、食品成分、食品の分類、保存、貯蔵に関する知識など、食品全般に関する知識を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
養護科目	- 教職概論	教育および教育の現場に携わる教師について、その歴史や役割、職務について学ぶ。現代の教師は「学び続ける教師像」として生涯学ぶ存在としてのあり方が提起されている。教師の仕事として、授業や生徒指導、学級経営、部活動指導、保護者対応など、多くの役割が存在するが、基本的には教職への熱意と意欲に満ちた存在として、児童・生徒への日々の教育実践に教師愛をもって「アクティブ・ラーニング」を行うことが求められている。また、今日の学校をめぐる様々な課題には、「チーム学校」として教師が協働して取り組むことも強く求められている。以上の教師をめぐる様々な課題について学ぶとともに、具体的な実践事例をもとに教師の在り方について考える。	
養護科目	- 学校経営論	将来どのような教師になりたいのか、あるいはなるべきなのかを考える前提として、まず、教育や学校組織を成り立たせている歴史や制度的基盤があることを確認する。そして、そうした基盤が現在の学校が存在する意味や、教師個々のライフワーク、かれらが抱きがちな価値観や信念について考察できるよう意図している。最終的には、学校経営という営みを、教師という視点のみならず、子どもの幸せを生み出せる「学校づくり」という観点から捉え、考察したいと考えている。	
養護科目	- 特別支援教育論	特別な支援を必要とする子どもの学習上、生活上の困難さについて理解を深め、個別支援のあり方について説明していく。そのためには、人の発達について知り、障害特性、人の生活とは何かということを通して深めていく必要がある。講義では、特別支援教育にいたる歴史の変遷を概説し、障害の具体的説明と、障害特性に応じた支援計画作成方法について、事例を示しながら説明していく。障害を持つ子どもの支援は、組織的に対応していく必要があるため、学校内における支援体制および関係機関との連携についても説明する。	
養護科目	- 教育課程論	教育課程はカリキュラムともいわれ、「学びの履歴」を意味する。教育課程の意義や歴史の変遷を理解し、学校教育の中で、児童生徒にいつの時期にどのような目的や方法で何を学ばせるのかといった教育計画や、事後の評価など教育課程に関する基本的な知識について理解する。具体的には、教育課程の意義や歴史、学習指導要領の変遷、日本の現代における教育課程および関連する課題や行なわれてきた教育改革等について、具体的な事例を通して理解を深める。	
養護科目	- 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	学校教育は、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の4つの領域で行われている。その中で、特別活動は学級活動やホームルーム、生徒会、学校行事、部活動など、児童・生徒にとっては非常に重要な内容を含んでいる。それらの活動について、具体的な事例を通して、その意義と課題や問題点などを考察し、特別活動のあり方について考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
保健医療学部看護学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
養護科目	- 道徳教育指導論	道徳教育に関する理論的な問題について、哲学や心理学、教育学等における議論をもとに考察する。また、子どもが実際に教育現場でどのように道徳を学んでいるか、授業映像や講師が教育実践の中で出会った子どものことを事例として理解を深める。明確な答えを設定できない問題領域であるため、講師は以上の事柄について考えるための題材の提供、及び問いの提起のみを行う。毎回の授業の中でグループワークを設けるので、学生間で積極的に考えを交わし、自分なりに思考を深めることを大切にしてもらいたい。授業中の発言、および感想シートを通した講師への質問や、学生自身の意見の表明については大いに歓迎する。	
養護科目	- 生徒指導論	現代における学校教育の現場で起こっている諸問題、特にいじめ・不登校・非行・問題行動などについて、具体的な事例を通して深く理解し、児童・生徒への指導に必要な基本的な知識や理論、専門的な方法について学ぶ。また生徒指導の意義を理解し、生徒指導の実際は個々の発達過程や生活状況など学校教育での学習以外の領域に及ぶこともあるため、個々の児童・生徒を全人的に理解し、健全な生き方ができるよう導く姿勢が重要であることを理解する。	
養護科目	- 教育相談	児童・生徒に深刻な問題として関わる事象が多発している昨今において、教育相談の意義、教育相談を必要とする状況、基本的な知識や考え方等について理解する。また、児童・生徒を取り巻く社会問題等、時代と共に変化する状況の中で教育相談のもつ役割がどのように変化してきたかを理解する。さらに、教師として児童・生徒が抱えている問題に適切に対応できるための専門的な知識やカウンセリング等の理論や方法・技術を学び、個々の児童・生徒への教育支援としての教育相談について理解する。	
養護科目	- 養護実習	これまでに学んだ養護教諭養成課程での学習内容、さらに養護教諭に必要とする専門的知識や技術等の学習内容を駆使し、学校での実務の体験を通して学ぶ。実習を通して、児童・生徒の実態や課題を把握し、専門的な立場からの対応、学習への支援についての活動を理解する。具体的には、これらの学習活動を通し、学校保健に関する具体的計画を立案・実践することの実際を学ぶ。また、学校における教育活動を理解し、養護教諭として教育現場の一員としての責任、さらには専門職として将来に向けた自らの課題を考える。	
養護科目	- 教職実践演習(養護教諭)	「教職実践演習」は国が定めた新たな必修科目で、教師になる学生が4年生の時点で学部4年間の学びの集大成として、教師としての基本的な知識や理解、教職の専門性などについて省察する科目である。従って、養護教諭を目指す学生は、教職科目の授業及び養護の専門科目や養護実習を体験して得た学習内容、またこれまで学んだ知識や理論を駆使し統合し「さらに学びなおす」ことにより、教育職-とりわけ養護教諭としての自覚や責任について考える。また、教育現場における養護教諭としての学校保健の重要性を認識し、さらに卒業後養護教諭になるための自らの課題を深く理解する。	